

川崎陸送 ブータン倉庫、建設候補地協議へ レモンガラス茶の輸入販売も

川崎陸送(本社・東京都港区、樋口恵一社長)がブータンで進めている定温・冷蔵倉庫プロジェクトが新たなステージに入った。現地の有力財閥企業

業につなげたい考えだ。

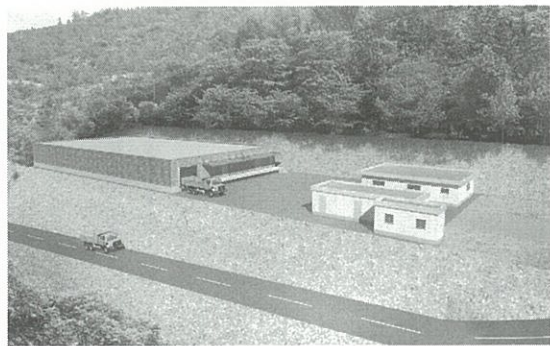
シンゲ・グループが候補地を提案

Singye(シンゲ)・グループから倉庫の建設候補地の提案を受け、協議に入った。ブータン産農産物の輸出による外貨獲得を支援する一環として、ブータン産レモンガラス茶の輸入販売も準備している。農家とのネットワークを構築し、将来的には現地の倉庫での保管・流通加工事

ブータンは農業を主要産業とし、約70万人とされる人口の約6割が農業に従事。大乘仏教の教えで殺生が禁じられており、世界で初めて「有機農業100%の国造り」を目指していることでも知られる。ただ、国土の大半が山岳地帯のため農地やコールドチェーンは未整備で、

「有機野菜」の輸出ポテンシャルが活かされていない。

川崎陸送では、日系企業として初めてとなるブータンに定温・冷蔵倉庫を建設することとで、同社がすでに定温倉庫を運



倉庫の完成イメージ

営しているインド北東州とブータンとの間で農産物、生鮮品、薬品等のサプライチェーンの構築を目指している。2019年11月には現地のシンゲ・グループとMOU（覚書）を締結した。

ブータンにおける農業振興と青果物や加工品の輸出拡大に向け、定温・冷蔵倉庫の整備で協力していくことで合意し、同グループがブータン西部、南部に保有する土地を建設候補地とする計画を進めている。昨年9月には、同グループから建設候補地の情報提供を受け、JICA（国際協力機構）などと協議を進めている。

建設候補地は国際空港のあるパロと首都ティンブーを結ぶ高速道路沿いに位置する。標高2020〜40mの高地で勾配がきついため、インドからの荷物を満載したトラックが登れるか、トラックの出力が大幅に落ちないかなど物流上の課題、擁壁や土留め、コンクリ舗装など工事の採算性なども考慮し、建設の可否を判断する。

倉庫のスペックは最大約1000㎡程度（平屋）で、2〜15℃、マイナス20℃、15〜20℃の3部屋を想定。冷蔵庫の部屋は断熱性を強化したサンドイッチパネルを採用し、そのほかの部屋は川崎陸送がインド西ベンガル州でJICAの支援で建設した定温倉庫と同様、壁全面に漆喰を塗り、荷摺りを設置する計画。

ブランド名は

「LAY BHUTAN」

また、ティンブーに所在する



バイオ・ブータンと提携し、同社を通じブータン産レモングラス茶葉をバルクで輸入し、日本でパッケージングして今春から販売する。1箱ティーバッグ2g×8個入りで初回ロットとして6000箱を予定。「レモングラスティー（パッケージイメージ）」と「レモングラス&グリーンティー」の2種類を用意する。

バイオ・ブータンは、ブータン初のオーガニック認証をヨーロッパ機関から取得し、添加物や香料を使わない自然派製品を製造している。また、持続可能な農業方法について農家に指導するなどの社会活動も行う。川崎陸送では、同社の化粧品類のウェブ販売と食品の輸入販売の

2本立てのプロジェクトを進めており、レモングラスティーの販売が第一弾となる。

日本で販売する際のブランド名はゾンカ語で「ブータンから（from BHUTAN）」を意味する「LAY BHUTAN」とする。バイオ・ブータンとの取引を通じ、今後同国で定温・冷蔵倉庫を運営していく際に、農家との接点をつくり、将来的にはブータン産農産物の流通加工、輸出につなげていく。



ブータン農家との接点を構築